日本赤十字社 和歌山医療センター
Japanese Red Cross Society
医療連携だより 春号
No. 89

和歌山市小松原通四丁目20番地
TEL：0120-965-582（医療連携課）
FAX：0120-937-510（医療連携課）
（発行責任者）
管理局長　内田 一彦
e-mail：renkei@wakayama-med.jrc.or.jp

就任のご挨拶

副院長 兼
高度救命救急センター長 兼
医療社会事業部長
中　大　輔

平素から、地域の医療機関の先生方には当センターの運営に多大なるご尽力とご協力を賜りまして誠に有難うございます。

令和6年4月1日付けで副院長を拝命いたしました。私は大学時代、野球部に所属しクラブ活動に没頭、勉強は二の次という学生でした。平成元年3月に和歌山県立医科大学医学部を卒業しましたが、その春は当時の厚生省から免許皆伝を許されず、翌平成2年5月に晴れて医師免許を取得することができました。和歌山県立医科大学脳神経外科学教室入局後は県内の病院などで脳神経外科医として勤務し、平成15年4月、日赤和歌山医療センター脳神経外科に着任し、その後は20年間、当センターで勤務してきました。

今回、副院長に就任し、私自身に求められている仕事は何かということを考えたとき、『救急医療』『医療連携』『災害医療』がその三本柱です。この3つの分野に対しては副院長として関連部署の職員を一つにまとめ、今まで以上に注力し全力で課題に取り組んでいく所存です。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

高度救命救急センター長として、『救急医療』の更なる充実を計ります。当センター救急外来では年間約20,000名の救急患者さんを受入れていますが、コロナ禍以降、高齢者、発熱患者さんの救急搬入症例が激増しています。令和5年度の診療実績では、救急外来患者さんのうち70歳以上が47％（10年前は30％）を占め、救急車での搬入率は42％（10年前は32％）にまで上昇しています。今後の高齢化を鑑みると、患者さんに占める高齢者の割合、また救急車搬入率は増加の一途を辿ることは間違いありません。2024年4月1日から施行された「医師の働き方改革」により、当センターでも医師の時間外労働に上限が設けられ、救急外来を支えている若手医師のモチベーションを維持しながら、「断らない救急」を続けていくことは非常に困難であり、問題は山積しています。しかし、諸先輩方の長年の努力により築き上げられた「救急といえば日赤」という看板をそうたやすく降ろすわけにはいきません。「働き方改革」と「断らない救急」の両立を維持するため、知恵を絞りながら頑張ります。

患者総合支援センター長として、『医療連携』をこれからの時代に即した新しいスタイルに変革します。今後は、「病診連携」のみならず、高齢化社会に対応するための「病病連携」が重要になると確信しています。地域の先生方のご尽力により「病診連携」の絆は非常に強固なものとなり、先生方からは多くの新患者さんをご紹介頂き、また多くの逆紹介患者さんを受け入れて頂いています。しかし前述したように、救急外来には連日多くの高齢患者さんが来られ、その中には必ずしも高度医療を必要としない患者さんも数多く見受けられます。当センター救急外来は「断らない救急」をモットーに数多くの救急症例を受入れ、時間外や休日であっても確実な診断と適切な初期治療を実施させて頂きます。その上で、周辺の医療機関の皆様方とは、このような患者さんを即日転院でお引き受けいただけるようなシステムを含んだ、新たな「病病連携」を構築させて頂きたいと考えています。

災害医療救援センター長として、今後も国内外に関わらず『災害医療』に積極的に貢献する所存です。当センターは、令和6年1月1日に発生した能登半島地震にも多くの職員を派遣しました。1月4日を皮切りに医師12名、看護師45名、薬剤師8名、公認心理師1名、事務職員22名の総勢88名の職員を石川県輪島市、珠洲市を中心に派遣しました。私自身も日赤災害コーディネーターとして1月4日からの超急性期、1月25日からの急性期、2月20日からの慢性期にそれぞれ1週間ずつ輪島市内で活動し、各フェーズで求められる救援活動内容の違いを被災地で実感する機会を得ることができました。輪島市の年齢別人口分布は和歌山県紀美野町とほぼ同じで、高齢者の占める割合が非常に高く、来るべき南海トラフ地震への備えとして何をするべきか、減災のためどのような準備が効果的かなど、たくさんの知見を得ることができました。日本赤十字社職員として得ることのできたこのような知見を、多くの関連組織の皆様と共有し、和歌山県の防災に役立てていくことが大きな使命と考えています。

最後になりましたが、「すべての患者さんに最良の医療を届ける」という目標に向かい、今後も邁進する所存です。今後とも御指導、御鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

麻酔科部長 兼
手術センター長
丹 下 和 晃

まず初めに、地域の医療機関の先生方、日頃より多くの患者さんを当センターへご紹介頂きまして感謝申し上げます。この度、４月１日付で麻酔科部長を拝命致しましたので、ご挨拶申し上げます。

私は、当センターの目前にある和歌山大学附属小学校に通い、2001（平成 13）年に和歌山県立医科大学を卒業後、和歌山県立医科大学附属病院で２年間臨床研修を行い、2003（平成 15）年に修練医として当センターで１年間お世話になりました。その後、大学病院に戻り 11 年間勤務し、再び当センターでお世話になっております。手術麻酔を中心とした臨床業務と、宴会の幹事が医師としての主な経歴でございます。

さて、当センターの手術件数および麻酔科管理件数は、地域の先生方のご尽力により、近年関西では名立たる大学病院を含めても３位、日赤系列に限っては全国１位となっております。 この場をお借りしてお礼申し上げます。

また、当センターでは PFM（Patient Flow Management）を導入しております。これは中央病床管理を行い病床の運用を効率化することで、患者さんの流れをスムーズにするシステムです。入院前から患者さんが安心して医療を受けられるよう、患者さんひとりひとりの状況を、身体的・社会的・精神的背景からもしっかりと把握し、入院中はもちろん退院後も含めた支援を一貫して管理しています。つまり、院内はもちろん地域ともつながり、切れ目のない医療を提供するものであり、この点においても地域の先生方にご尽力をいただいております。

その中で麻酔科は、手術を予定されている患者さんに対し、PFM の一部にあたる入院支援に直接介入しています。当センター本館１階にある患者サポートセンターにおいて、患者さんからの情報収集や患者さんへの情報提供を行うと同時に、いわゆる「麻酔前診察」を行い、できるだけ早期に、患者さんの問題点を把握し患者さんに安心感を得ていただけるよう努めています。

そのため、かかりつけ医 の先生方に診ていただいている疾患（慢性腎臓病、サルコペニア、貧血、低栄養、運動機能、歯科口腔機能など）の詳細を入院前に十分把握できるよう、診療情報の提供や入院中の注意点のご教示などをお願いすることもございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

また、ペインクリニック外来も、帯状疱疹・脊椎疾患・線維筋痛症などの難治性疼痛・術後遷延痛など多岐にわたる疾患を診療対象とし、当センターきっての癒し系麻酔科医達で診療にあたっております。初診は完全予約制で受診時は紹介状が必要となりますが、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

本年度より、改正された労働基準法、いわゆる「医師の働き方改革」が本格実施されます。今までの自己犠牲の精神で医療を提供するスタイルから、タスクシフト・タスクシェアを含め、各診療科医師、手術室看護師に加え、看護助手、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士、その他コメディカルと今まで以上に協力したチーム医療が要求されます。また、増加し続ける手術件数に安全な対応をするため、今後は非常勤医師の増員も予定しています。現在のクオリティを落とすことなく、患者を取り巻くすべての医療関係者がより効率的に業務にあたれるよう工夫できれば、と考えています。

前任の伊良波元副院長と比べ、まだまだ、まだまだ未熟な私ではございますが、あまり気負うことなく、いずれは手術室運営でも、うまく幹事をし、患者さんはもちろん周りのスタッフも笑顔にし、安心して頂けるような、とにかく明るい手術室にしたいと考えております。そのためにも、地域の先生方にお力添えを頂けますと幸いです。今後ともご指導、ご鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

健診部長 兼
消化器内科部副部長
中 谷 泰 樹

この度、４月１日付で健診部長を拝命いたしました。

私は和歌山市出身で、地元の太田小学校、日進中学、向陽高校を経て、2004 年（平成 16）年に香川大学医学部を卒業しました。私の卒業年次から、現在の卒後臨床研修制度が開始され、学生時代多くの病院見学をしたのち、京都大学医学部附属病院で研修を開始しました。そこで、全国から集まる志の高い同僚医師や先輩医師の医療レベルの高さを痛感し、ますます医療への熱意が沸いてきたことを今でも覚えています。次の研修先を相談した当時の先輩医師から「日赤和歌山医療センターは大変だけど、とても良い研修ができるよ」とアドバイスいただき、地元和歌山に戻ってくることになりました。

当センターでの研修中は、救急診療を中心に日々刺激的な臨床経験を積むことができました。特に消化器内科の研修中は、内視鏡診療の魅力をたくさん教えていただき、夢中で先輩の技術を見て学び、実践しました。卒後臨床研修も終わりに差し掛かり、これからの専門診療科を選択する際、外科や循環器内科とも迷っていた私は、現山下幸孝院長（当時消化器内科部長）に相談にいったところ、「中谷先生は内視鏡楽しそうだったから、もう消化器内科に決めてあるよ」と言われ、即進路が決定しました。

私が赴任した当時の消化器内科は、今より大変少ないスタッフ数でしたが、厳しくも暖かい先輩医師や山下院長の御指導により、医師としての基本的な知識・技術・診療対応などを身につけ、ひたすら目の前の患者さんと向き合い、診療に取り組むことができました。日に日に自分でできることが増えていく楽しさを感じ、医師として最も成長を実感できた時期でした。ただ厳しい修練の日々でもあり、日常診療を終え、病院から自宅に帰ってからどのように過ごしたのか、あまり記憶がありません。幸い同期や先輩方、コメディカルスタッフに助けられ、協力・サポートがあったから乗り越えていけたと思います。現在の働き方改革方針からは、不適切で時代にそぐわない環境でしたが、自身の医師基盤を構築できたかけがえのない期間であったと思います。

現在、私の専門領域は消化器疾患で、特に消化管内視鏡診断・治療を主に行っております。がんセンターユニットにも属し、がん診療を行っています。そこで感じたのは、疾患の早期発見の重要性です。これまで健康診断を受けてこられなかった患者さんが、検査で進行癌と診断され、病名を告知した際のショックと「もっと早く検査を受けておけばよかった・・・」など、後悔の言葉が脳裏に焼き付いています。

一方、当センター健診の胃カメラで早期の胃がんを指摘され、不安いっぱいで外来を受診された患者さんが、その後、内視鏡治療を行い、がん治癒につながったときに「本当に、日赤で健診をうけてよかった」と言ってもらえたことを大変うれしく思いました。

我が国における死亡原因は、がん、脳血管障害、心臓病などのいわゆる生活習慣病が上位を占めるようになってきています。健康診断・人間ドックの目的の１つは、生活習慣を原因とする新たな病気の発生を予防すること。２つ目は、自覚症状のない早期のうちに病気を発見し治療することです。

生活習慣病は、初期には自覚症状がないことも多いので、その発見や予防のために、総合的な健康診断が必要です。疾病の早期発見、早期治療はもちろん、予防のために生活指導を受け、自分の身体の状態を知り、将来、より健康に過ごす情報を得ていただくことが大切です。

当センター健診部では、医師・看護師・臨床検査技師・診療放射線技師によるチーム体制で、スムーズで安心・安楽な検査提供を心がけております。１日ドック、２日ドック、すべてのオプション検査を加えたプレミアムドックや PET-CT コース、脳ドック、肺がんコースなど複数のコースを準備しており、希望により選択いただけます。予約は従来通りの電話予約と本年４月からインターネットでの予約が可能となりました。また病院併設型健診のメリットとして、健診結果で要精査と判定した場合は、ご希望に応じて、当センター専門外来の診察も予約可能です。

今後も当センターとして地域医療に貢献できるよう、微力ながら尽力してまいる所存です。皆様のさらなるご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

院長補佐のご紹介

令和６年４月より根來慶春放射線治療科部長が院長補佐に就任しました。
池上達義呼吸器内科部長、梅岡成章放射線診断科部長、伊藤哲之泌尿器科主任部長とともに４名体制で院長補佐の業務を遂行します。

根來慶春　院長補佐　兼　放射線治療科部長

令和６年４月より院長補佐を拝命させていただきます、放射線治療科部の根來です。
放射線治療科部は地域の先生方と直接やり取りすることは少なく、お目にかかる機会も限られています。その一方、当センター内では、ほとんど全てのがん診療科と連携しており、横串を一本通すような役割を果たしています。このような視点を通じ、センター内の診療レベルの向上、種々の体制の整備、ひいては地域医療への貢献など、お役に立てればと考えております。
微力ではございますが、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

男性不妊外来開設について

泌尿器科主任部長　伊　藤　哲　之

令和６年３月より当センター泌尿器科外来にて男性不妊外来を新たに開設しました。
これまで抗がん剤治療開始前の妊孕性温存のための精子凍結保存外来（自費診療）をAYA世代の患者様に向けておこなってきました。
この度、開設しました男性不妊外来では、精子の状態など男性の問題によりご夫婦が希望されている挙児に至らない患者様が対象です。顕微授精のための精巣内精子採取術（TESE）、精索静脈瘤に対する顕微鏡下精索静脈瘤低位結紮術など生殖医療の多くを健康保険診療でおこなうことができます。

男性不妊外来

診療日時　毎週金曜日　①午後１時～　②午後１時30分～　（完全予約制）
担当医　泌尿器科部　副部長　山田　祐也

（ご紹介いただくにあたってのお願い）
当センターでは現在、ご夫婦の挙児を目的としない男性機能障害（勃起不全や男性更年期障害等）についての診療は、専門医が不在であることもあり、行っていません。
つきましては60歳を越える方、60歳未満でも挙児を目的としない男性機能障害の患者様の男性不妊外来へのご紹介はお控えいただきますよう、お願いいたします。

【問い合わせ先】　予約センター　FAX 0120－937－510
TEL 0120－936－385
医療連携課　TEL 0120－965－582

がんセンター通信 ⑬

（血液がんユニット）

血液内科部長　岡　智子

がんセンター
Cancer Center

当センターの血液がんユニットでは、造血器悪性腫瘍を中心としてあらゆる血液疾患に対応するように努めています。

急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・慢性白血病・骨髄異形成症候群などの造血器腫瘍の診断を、各診療科および検査部と連携して、迅速かつ的確に行い、患者さんの状態を評価し、患者さんやご家族とお話して治療方針を決定します。

治療は、抗がん剤を用いた化学療法・抗体薬をはじめとする分子標的療法・放射線治療・自家移植を組み合わせた集学的治療を行っております。治療は各人で副作用の出方にかなり差があるため、最初は入院して受けていただきます。入院中は、多職種でカンファレンスを行い患者さんの状態を把握し、快適に入院生活を送れるようサポートしております。大きな副作用がなければ、その後の治療は外来通院しながら受けていただいています。輸血が必要になった場合も、通院しながら受けることが可能です。

より多くの患者さんに安全に治療を提供できるように、今後も体制を整えていく方針です。スタッフ一同、高度で先進的な治療を提供できるように積極的に取り組んでいますので、血液の病気ならご紹介ください。

令和５年度 診療科別合同セミナー・講演会実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しています。随時ご案内しますので是非ご参加ください。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数（合計）
２月１日(木)	循環器内科 糖尿病・内分泌内科 腎臓内科	Hypertension Joint Meeting（ハイブリッド）	プラザホープ	42名
２月22日(木)	感染症内科	令和５年度第４回感染対策向上加算に係る合同カンファレンス	WEB配信	87名
２月29日(木)	循環器内科	循環器疾患Web Symposium ～脂質管理の新知見～	WEB配信	20名
３月７日(木)	乳腺外科	第19回 Breast Cancer Network Construction Seminar	WEB配信	19名
３月15日(金)	脳神経外科	令和５年度第３回脳卒中地域連携パス情報交換会	WEB配信	72名
３月21日(木)	整形外科	令和５年度第３回大腿骨頚部・転子部骨折地域連携パス合同カンファレンス	WEB配信	48名

退職のお知らせ

2月29日付

消化器内科	瀬田剛史	（副部長）
呼吸器内科	堀川禎夫	（副部長）
乳腺外科	石井慧	（医　師）
消化器内科	上野昌太朗	（専攻医）
消化器内科	坂野利樹	（専攻医）
産婦人科	元木貴裕	（専攻医）

3月31日付

麻酔科部	伊良波浩	（副院長）
腎臓内科部	東義人	（部　長）
放射線診断科部	尾谷知亮	（副部長）
心臓血管外科部	瀧本真也	（副部長）
救急科・集中治療部	東秀律	（副部長）
消化器内科部	小西隆文	（医　長）
脳神経内科部	大原寛明	（医　長）
心臓血管外科部	原寛幸	（医　長）
眼科部	川島祐	（医　長）
歯科口腔外科部	佐武明日香	（医　長）
消化器内科部	松山和輝	（医　師）
消化器内科部	脇田碧	（医　師）
腎臓内科部	杤尾明	（医　師）
腎臓内科部	小西諒	（医　師）
放射線治療科部	筆谷亜希	（医　師）
眼科部	安原聡志	（医　師）
耳鼻咽喉科部	鈴木智也	（医　師）
循環器内科部	畑村美諭	（専攻医）
消化器内科部	押川大介	（専攻医）
糖尿病・内分泌内科部	朝井勇晶	（専攻医）
脳神経内科部	湯川佳代子	（専攻医）
小児科部	藥王俊成	（専攻医）
耳鼻咽喉科部	井上大志	（専攻医）
産婦人科部	西川真世	（専攻医）
歯科口腔外科部	金尾光	（専攻医）
形成外科部	成山晃弘	（専攻医）

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。

就任のお知らせ

3月1日付

消化器内科部	髙折克至	（専攻医）
消化器内科部	簑島貴成	（専攻医）
産婦人科部	児玉光紗	（専攻医）

4月1日付

放射線診断科部	田中宏明	（副部長）
心臓血管外科部	堀裕貴	（副部長）
脳神経内科部	河村祐貴	（医　長）
循環器内科部	上田晃平	（医　師）
循環器内科部	一柳知宏	（医　師）
循環器内科部	吉田昭典	（医　師）
消化器内科部	北田智也	（医　師）
小児科部	松崎紗矢香	（医　師）
整形外科部	坂﨑太紀	（医　師）
眼科部	石倉雅治	（医　師）
耳鼻咽喉科部	岡元淳	（医　師）
耳鼻咽喉科部	安田佳織	（医　師）
耳鼻咽喉科部	谷口貴哉	（医　師）
歯科口腔外科部	井原健太	（医　師）
救急科・集中治療部	室谷知孝	（医　師）
循環器内科部	坂本涼	（専攻医）
循環器内科部	甲斐崚太郎	（専攻医）
消化器内科部	森敬之	（専攻医）
消化器内科部	植月彩華	（専攻医）
糖尿病・内分泌内科部	杉本浩嗣	（専攻医）
腎臓内科部	玉置栞名	（専攻医）
腎臓内科部	宮澤秋馬	（専攻医）
脳神経内科部	津田陽樹	（専攻医）
小児科部	貴夛大樹	（専攻医）
小児科部	岡元文香	（専攻医）
消化器外科部	熊野万理恵	（専攻医）
乳腺外科部	山中亜希	（専攻医）
呼吸器外科部	北堀魁常	（専攻医）
眼科部	岡由佳子	（専攻医）
耳鼻咽喉科部	寺井匠	（専攻医）
産婦人科部	髙櫻真依子	（専攻医）
産婦人科部	西松謙一	（専攻医）
歯科口腔外科部	五木田彩名	（専攻医）
形成外科部	林﨑俊伍	（専攻医）
救急科・集中治療部	近藤麻代	（専攻医）

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお願いします。